

Tohoku Gakuin Alumni Association

LUX MUNDI

東北学院同窓会報 [ルクス・ムンディ～世の光～]

Vol.22 2018.11



通信

Life Light Love

18万人が繋ぐ、TGコミュニケーション

教養学部設置30周年記念イベント

【日時】2019年3月2日(土) 【会場】東北学院大学泉キャンパス／江陽グランドホテル

開催趣旨 平成30年4月に開設30年の節目を迎えたことから、記念行事等を行い、高校生および地域社会に教養学部の教育・研究・地域貢献活動を広くPRするとともに、卒業生のネットワークの強化を図る。

【プログラム】

第1部 学びのオープンキャンパス 13:00～16:30

東北学院大学泉キャンパス

- (1)総合研究発表 13:00～14:20 *各学科の優秀卒業研究(4～5本)の発表
 (2)「未来に響け!美しい東北のこぼれ」公演とシンポジウム 14:45～16:30
 ①公演 東北落語:『なまって笑ってコミュニケーション』
 (六華亭遊花/落語芸術協会・三遊亭遊座一門)
 東北シェイクスピア:『奥州幕末のハムレット』『温泉旅館のロミオとジュリエット』
 (岩住浩一、星奈美、高橋利樹、増田寛子/シェイクスピア・カンパニー)
 ②ミニシンポジウム
 コーディネーター:柳井雅也(地域構想学科教授)
 シンポジスト:アンドリュース・デール(言語文化学科准教授)、
 金菱清(地域構想学科教授)、
 増田寛子(言語文化学科4年)

*第1部(1)まで大学公式オープンキャンパスとして実施されますが、卒業生や一般の方々の参加も可能です。

第2部 教養学部設置30周年祝賀会

江陽グランドホテル

- 18:00 開場 教養学部学生の活動紹介
 (パネル展示・学生による解説など)予定
 18:30 開宴
 20:30 終宴
 *詳細については後日ご案内します。



information

東北学院大学 オリエンテーション・リーダー会 60周年記念祝賀会

【日時】2019年11月2日(土) 17:00～ 【会場】江陽グランドホテル

オリエンテーション・リーダー経験者の皆様 名簿を作成いたしますので、連絡先情報をお寄せ下さい!

この度、2019年のオリエンテーション・リーダー60周年を前に、有志により実行委員会を発足させ、祝賀会開催の準備を開始いたしました。現在、ご案内を差し上げるために名簿整備を急いでおりますので、是非皆様の情報をお寄せ下さい。また、お知り合いのリーダー経験者の皆様にも、ご案内いただけますようお願いいたします。

東北学院大学オリエンテーション・リーダー会60周年記念祝賀会実行委員会

お寄せいただく情報は、①氏名②ヨミ③旧姓④卒業年⑤学部学科⑥携帯番号⑦携帯アドレスの7項目です。次の【1】～【4】のどの方法でもご登録いただけます。

【1】Facebook会員サイト

TGリーダー会60周年記念祝賀会

【2】LINE会員サイト

オリエンテーション・リーダー会60周年記念祝賀会

【3】メール

東北学院大学オリエンテーション・リーダー会60周年記念祝賀会実行委員会事務局
 tguoreader@yahoo.co.jp

【4】郵送またはFAX

有限会社 舘崎兄弟
 〒984-0055 宮城県仙台市若林区表柴田町30-6 FAX 022-256-0807

*収集させていただきました個人情報は、祝賀会と設立の検討を開始しているオリエンテーション・リーダーTG会の連絡のみに使用致します。

Facebook



Email



CONTENTS

- 01 教養学部設置30周年記念イベント
東北学院大学オリエンテーション・リーダー会 60周年記念祝賀会
- 02 特集
株式会社バイタルネット
代表取締役社長 一條 武
アツギ株式会社
代表取締役社長・社長執行役員 工藤 洋志
- 08 躍動する同窓生 ～世代を超えたTGの輪～
東北大学 未来科学技術共同研究センター(NICHe)
シニアリサーチ・フェロー
理学博士 川添 良幸
歌人 高橋 みずほ
はづき法律事務所 弁護士 高城 晶紀
- 14 懐かしい風 新しい出会い～同窓生のお店を訪ねて～
イタリア料理店 アツラ・グリッリア
代表 脇田 浩明
マネージャー 脇田 沙織
阿部勘酒造株式会社 専務取締役 阿部 昌弘
- 18 代議員会報告 / 収支決算書
- 20 TGギャラリー
- 21 TGネットワーク
- 巻末 校友課より

LUX MUNDI

Tohoku Gakuin Alumni Association

東北学院同窓会報

[ルクス・ムンディ～世の光～]

Vol.22 2018.11

表題 ～Lux Mundi(世の光)～

「Lux Mundi(ルクス・ムンディ)」は、ラテン語で「世の光」を意味します。「世の光 わがほこり」と校歌にも出てきますので、東北学院で学んだ方々には馴染み深いものがあると思います。「ルクス・ムンディ(世の光)」は、いうまでもなく東北学院の真の創設者イエス・キリストのことです。そのキリストの光に導かれて、それぞれの人生を歩んでいただきたいとの願いが込められています。



表紙

東北学院榴ヶ岡高等学校

「自学自律」をスクールモットーとし、校則を最小限にして、生徒の自主性を尊重した教育を実践する東北学院榴ヶ岡高等学校。2019年からは、新しい時代の変化とニーズに応える教育を実践する新3コース(特別進学コース・TG選抜コース・総合進学コース)がスタートします。



地域社会に必要とされる ヘルスケア コーディネーターを目指して

Interview with The President



株式会社バイタルネット
代表取締役社長

一條 武

(いちじょう・たけし)

昭和57年工学部応用物理学科卒

昭和34年10月16日生まれ。仙台市出身。試薬メーカー勤務を経て昭和60年サンエス(株)(現(株)バイタルネット)に入社。宮城、福島、山形と営業畑一筋に歩む。平成18年執行役員宮城営業部長に就任、平成27年6月より現職。趣味はゴルフ。カラオケで歌うのはスガシカオの『プロGRESS』。「『あと一歩だけ、前に進もう』という歌詞がいいですね」と笑顔で話す。東北医薬品卸業連合会会長、宮城県医薬品卸組合顧問も務め、多忙な日々を送る。



事業の幅を広げる 多面的ネットワーク

医療用医薬品を始め、医療機材、診断薬、一般医薬品といった医療関連商品を調剤薬局、診療所、病院などの医療機関に販売する医薬品卸売業を主軸に、東北6県および新潟において、確固たる基盤と高いシェアを誇る(株)バイタルネット。地域密着の強みとバイタルネットグループの多面的なネットワークを生かし、地域のヘルスケアインフラ構築に貢献している。

「近年はグループ企業の(株)バイタルケアを通じて介護事業にも力を入れています。医療から介護、予防といった健康的な生活を送るのに必要なモノやコトを有機的につなぐ役割を果たしています」と一條さん。現在、東北6県を中心に支店を45カ所、物流拠点も53カ所展開する同社は、人口が約98万人の秋田県内にも6つの支店をもつ。ここにも少子高齢化がもたらす課題に真剣に向き合い、丁寧なサポートを提供しようとする同社の姿勢が如実に表れている。

東日本大震災を機に JMAT宮城に参画

近年、医療機関に医療用医薬品を卸す、いわゆるB to Bの事業形態から、時代の要請にいち早く応じて、生活者の健康的な生活維持にも寄与する企業へと成長を遂げた同社。東日本大震災では、医薬品卸が機動的に薬を供給した功績が認められ、現在、一條さんが顧問を務める宮城県医薬品卸組合(以下、卸組合)が全国で唯一、JMAT(日本医師会災害医療チーム)宮城に加入する卸組合となった。

美と快適、健康を キーワードに 品質にこだわった 商品を提供

Interview with The President

ATSUGI

アツギ株式会社
代表取締役社長
社長執行役員

工藤 洋志

(くどう・ひろし)

昭和62年経済学部商学科卒

昭和39年12月13日生まれ。青森県むつ市出身。昭和62年アツギ(株)に入社、以来20年間、営業を担当。平成19年秘書室長に就任。その後、経営企画室長、人事総務部長と秘書室長を兼任、平成25年執行役員となる。平成26年6月より現職。趣味は海釣り。モットーは「常に向上心をもつ」。「現在、TOEICに挑戦しているのですが、なかなか英語がマスターできません。どなたか勉強のコツを教えてください」と笑う。



「東日本大震災のとき、私は卸組合の理事長という立場でした。何もかもが混乱の中でありましたが、私たちが行ったのは、被災地に何とかして薬を届けようということ。まず病院や調剤薬局が機能しているの可否かを、実際に現場に向いて確認。その結果を医師会に報告したり、どんな医薬品がどれくらい必要なのかといった情報を収集して、被災地に届けました。それができたのは、弊社が各地に支店や物流センターを有していたからではないかと自負しています」。

また、同社は平成28年に発生した熊本地震の際にも、JMAT宮城の一員としてサポートを行った。「このときは、宮城県薬剤師会が東日本大震災を教訓に開発した災害対策医薬品供給車両「モバイルファーマシー」が導入された直後で、ちょうど

大分県に配備されていた「モバイルファーマシー」が熊本に入って薬を供給した。一條さんは卸組合の一員として、熊本の医薬品卸売業者およびJMAT(日本医師会災害医療チーム)と連携し、薬の流通について助言した。「今後は、より危機管理意識を高め、私たちの事業が地域に暮らす皆様の安心につながるよう、社員を福祉や介護の拠点に派遣し、そこで活躍する専門職の方々と連携する道を探りたいと思っています」。

現代社会が直面する認知症、がん、在宅医療、それに再生医療を加えた4つの領域に特化して、高度な専門知識をもつ社員の育成にも取り組む同社。医薬品の卸を通じて、事業内容はさらなる深化を続ける。

いまに生きる 大学時代の学び

工学部出身の一條さんは、多賀城キャンパスで4年間を過ごした。

「星宮務先生の研究室に所属し、3年生の2月くらいからは、ずっと研究室にこもるような生活を送っていました。星宮先生には学問的なことはもちろん、実験装置のつくり方まで、本当にいろいろなことを教えていただきました。レーザーが専門で、4年生のときは98日間、研究室に泊まり込み、徹夜で分子から音を取るという実験に夢中になりました。いま、再生医療の分野で、幹細胞を増殖させて再生した臓器を移送する技術の研究を行っています。マイナス90℃での移送が必要になるのですが、この点に大学で学んだ知識が大変役に立っているんです。一生懸命に学んで良かったなと思います」と学生時代を振り返る。

最後に、今後の抱負を伺った。

「『人生100歳時代』といわれるいま、健康寿命を伸ばすことに、多角的に関わっていきたくと考えています。弊社は硬式野球部をもっておりまして、社会人野球日本選手権大会や都市対抗野球大会などの全国大会にも出場し、部員やOBによる野球教室を開催するなど地域のスポーツ振興にも取り組んでいます。このように、いろいろなアプローチで、地域の皆様の心身の健康づくりに寄与できる体制を整えていきたいですね」。

健康に対する意識が高まるいま、同社に対する期待もますます大きくなっている。これからも人々の日常生活はもちろん、災害などの緊急時にも、地域に貢献できる企業に成長することを目指している。



営業で学んだ

約束を守ることの大切さ

昭和22年設立のアツギ(株)は、昨年、設立70周年を迎えた。創業以来、「すべての女性の美と快適に貢献する」という夢を抱き、レグウェアのリーディングカンパニーとして、今日まで走り続けてきた。それを可能にしているのは、商品企画から開発、生産、販売、物流までを自社で手がける一貫生産体制だ。徹底して品質にこだわった商品を生み出し、消費者にいち早く提供できるのが同社の強み。そして70年という歴史の中で、世の女性たちを驚かせ、笑顔にする大人気商品を次々と発表してきた。

「もともとストッキングは1枚の布を丸く縫い合わせてつくっていました。その縫い目をなくしたシームレスストッキングを開発したのは当社です。また、当初は一足ずつだったストッキングを一体化したパントリーストッキングや、フィット性を劇的に向上させたサポーターストッキングを時代に先駆けて開発しました」と工藤さん。

それまで世の中になかった「美」や「快適」を手にした女性たちからの信頼を原動力としてきた同社。現在は、ストッキングやソックスなどのレグ事業、女性用のランジェリーなどを扱うインナー事業、お年寄りや障害をもつ人の自立を支援する介護用品事業の3本柱で事業を展開している。

「ストッキングは当社の主力商品で、国内シェアは30%ほどです。私が入社した1987年から1990年くらいにかけては、ストッキングの売れ行きがピークで、日本国内で年間約11億足の消費がありました。世の中はバブル景気にわきました。それが弾けると同時にファッションのカジュアル化が進み、ストッキングの需要も一気に3分の1まで縮小したのです。私は

20年間、営業畑を歩いてまいりましたが、市場が縮小する中での営業活動は至難の業でした。でもこの経験から、大切なことも学びました。それは、お客様との約束を守ることが、信頼を得るシンブルで最大の方法なのだという事です。近年、またストッキングの良さが若い世代にも支持されるようになり、本当にうれしいです。しかし、ストッキングに偏りすぎるのは良くありませんので、それ以外の販売ウエイトを高めるのが今後の課題です」と工藤さんは話す。

女性たちにさまざまな形でエールを送り続ける同社だが、「美」と「快適」に加えて、近年は「健康」をキーワードに新たな挑戦も始めている。その一例が弘前大学と連携し、大学院医学研究科に開設した共同研究講座「健康と美医学講座」だ。

「講座の研究結果を、新商品の開発やものづくりにつなげていくのが狙いです。また、青森県むつ市には50年前から当社の拠点がありますので、地域の皆様に、これまで大変お世話になった恩返しができると思います」と工藤さん。青森県は男女ともに平均寿命が全国最下位という喜ばしくない記録をもっており、「短命県」返上に向けた取り組みが盛んに行われている。同社はその一翼を担っている。

経済界で活躍する

同窓生たち

工藤さんは青森県むつ市の出身で、東北学院大学進学を機に、仙台での一人暮らしを始めた。

「大学時代は自転車で北海道を半周したり、一番町の果物屋さんで夜間のアルバイトをしてお金

を貯めて、憧れていたRX7という車を手に入れたりと充実した4年間を送りました。卒業してから改めて思うのは、東北学院大学のOBの中には、経済界で活躍している経営者の方々が大変多いということです。同じ大学の出身ということと声をかけていただいたり、先日は東京のTGC会にもお誘いいただきました。とてもうれしいですし、誇りに思います」と工藤さんは柔らかな笑顔で話す。

誇りを胸に

生き生きと働ける会社に

最後に、今後の事業展開について伺った。

「市場の変化に合わせて、事業の偏りを是正していきます。例えば、日本国内だけでなく、海外での売上、またインターネット販売による売上も伸ばそうというのもその一つです。一人でも多くの方に当社の製品を使っていただき、満足していただくことで利益が生まれれば、さらに消費者の皆様が満足していただけるような商品開発に投資をすることが出来ます。さらに従業員を始め、株主の方、地域社会にもきちんと還元できる。そんな会社になれば、従業員の皆さんも自分の仕事に誇りを感じ、これまで以上に生き生きと働くことができると思います。そして、いつまでも明るく元気に過ごしたいと願う皆様の思いに、私たちがつくる衣料品が貢献できる道を探ってまいります」と工藤さん。これまで、消費者の潜在的な欲求を顕在化し、形にできた同社だけに、「美」と「快適」、そして「健康」に寄与する新商品開発に期待がかかる。



年に2回、展示会が開かれるスペースに立つ工藤さん(本社屋内)。「一人でも多くの方に、当社の商品の良さを実感していただき、社名を覚えていただきたいですね。それが社員のモチベーションにもつながると思います」と話す。





同級生バンドを結成

東北大学青葉山キャンパスに設けられたハッチェリースクエアに川添先生の研究室はある。その室内には譜面台とクラシックギター、そしてエレキギターが置かれていた。

「クラシックギターは小学生のころから弾いていました。エレキギターを始めたのは数年前です。実は東北学院の同級生たちと、高校を卒業した昭和41年にかけて、「41」を「よい」と読み、「宵（よい）トリーズ」というバンドを組んでいるんです。この夏も、同級生が組合長をしている青根温泉の夏祭りでも、演奏することになっているんですよ」と笑顔を見せる川添先生。また東北学院の同級生たちと、卒業後50周年を記念して（東北学院130年の歴史において初）、文集「汽水域」を発行するなど、その絆はいまも続いている。

青根温泉夏祭りへの出演後は、中国、韓国へと出張が続く。研究はもちろん、講演活動や自身が立ち上げたNPO科学協力学際センターの活動、「宵トリーズ」のライブと、休む暇もない忙しさ。いつ休んで、どれくらい睡眠時間が確保できているのだろうか。

「かみさんが言うには、『あなたは寝られるときはいつでも寝てる』そうです。確かに新幹線での移動中はもちろん、飛行機に乗る前にラウンジでちよっとお酒をいただいたら、離陸する前に夢の中ですよ」と楽しそうに笑う。



五角形だけの炭素物質「ペンタグラフェン」の模型。物質は普通、押したり引っ張ったりすると、その方向に縮んだり、伸びたりして体積を保とうとするが、この炭素物質は同時に垂直方向にも縮んだり、伸びたりするため、体積が一定ではないという特性がある。このことは、圧力をかけても伸び縮みしない材料がつくれる可能性を示している。

躍動する同窓生 PROGRESS KAWAZOE Yoshiyuki

川添 良幸
東北大学 未来科学技術共同研究センター(NICHe)
シニアリサーチ・フェロー
理学博士

昭和38年東北学院中学校卒、昭和41年東北学院高等学校卒

昭和22年12月16日生まれ。仙台市出身。東北大学理学部で原子核物理学を専攻。昭和50年4月同大学教養部に助手として採用され、同情報処理教育センター助教授、平成2年5月に同大学金属材料研究所の教授に昇任。東北学院大学でも非常勤講師を務め、階段教室で行われた講義には大勢の学生が押し寄せた。平成24年3月31日付けで定年により退職。現在、東北大学名誉教授として未来科学技術共同研究センター内で研究を続けている。

世を超えたTGの輪

さまざまな分野で活躍する東北学院の同窓生たち。

物ごとの本質を追究

川添先生は、原子核理論や並列計算機(わが国最初の並列コンパイラ作成)、文字自動認識(インド系文字は世界で最初)、日本語教育などを行ってきたが、先生自身は「金属材料研究所で教授に就任してからが本当の研究」と語る。材料を理論的に設計するという、25年前には不可能な課題にチャレンジした結果、世界初のエネルギーの絶対値算定を可能とする量子力学定式化とその実行ソフトウェアを開発。また全く新しい五角形のみで構成される炭素構造「ペンタグラフェン」が安定であることを発見した。さらに、新しい分野で自分の学会を立ち上げようと「ナノ学会」を創設。アジア計算材料学コンソーシアムの創立者でもある。

「誰かがやっていることには興味がないんです。私が興味をもっているのは『RATIONAL BEINGS』、日本語訳は『存在の理法』、すなわち研究成果をもって何をできるのか、何ができるのかという点ではなく、なぜ、そうなるのかという『もの理(ことわり)』に興味がある。良く『見ればわかる』なんて言いますが、見てもわからないことはたくさんありますからね。」

川添先生は、「常識」と言われている考え方を疑いながら、物ごとの本質を追究し続けてきた。磁性の根拠が90年も間違っていた教科書に書かれていたことを正すことに成功したことは、その好例だ。

「これからも博士≡博学の人といえる人材を育成していきたい。それが夢ですし、また、私を支えてくださった方々に恩返ししたいとも思っています。」

研究生活を送りながら、海外にも精力的に出かけて行き、人材育成にも心血を注ぐ川添先生。このバイタリティと旺盛な好奇心の源を伺うと、こんな答えが返ってきた。

「東北学院時代が一番楽しかったですし、脳みそが新しいことをどんどん吸収した時期でもありました。いまの私をつくったのは、紛れもなく東北学院で過ごした6年間で培ったものです。」

東北学院時代に 培ったものが、 いまの私を つくっています



躍動する同窓生

PROGRESS

（高橋みずほさんの作品より）

群れがもは光のしっぽを引き摺って陽の炸裂に入っていた 『凸』

暮れどきの野バラはなびら落ちる道空気の凹みをうけて ほら 『画』

夕焼けをひらくように門をひく祖母のとける輪郭 『しろうるり』

小さき息かく水の面（も）にまるく水澄ましの春の輪 『春の輪』

冠毛にゆめの種をはこぼせてこの道は夕暮れとなる 『ゆめの種』

ゆきのののしずくのあなのひろがりぬ青菜のうすく見えだす春日 『白い田』



言葉と言葉の間から

湧き出るものを

感じていただけたら

うれしいです

『湧き出る思い』に形を与える

「国語がまったく苦手だったものですから、私が『本格的に短歌をしたい』と言ったら、親が本当に心配していました」と愉快そうに話す高橋さん。その語り口に、ざっくばらんなお人柄がにじみ出る。短歌の作風も実に自由。通常は5・7・5・7・7で詠まれる短歌だが、高橋さんの作品は、それとは異なる独特の音数律が特徴で、5・7・5・7・うになつていたりする。それはなぜなのか、そして国語が苦

手でも歌人になれるものだろうか。不躰な質問であることは承知で聞いてみた。

「歌は『表現』ですから、難しい言葉を知っているから作品がつけられるわけではないんですね。言葉に限らず、『湧いてくるもの』が『表現』になるのではないかと感じています。また、5・7・5・7・7になつていないのは、人に指摘されて初めて気がついたんです。音数ではなく空間と

してリズムが良いな...と思うところでくつっているからかもしれない」。そんな高橋さんが、最初に歌を書くきっかけになったのが「日記」だった。20代の始めごろ、日記をもう少し短くまとめてみようかと、短歌にしたためてみた。これが何ともおもしろく、30歳になるころには、まったく数の歌が揃った。

「100首書くことができたので、会社に入ってみようと思ったのです。ちょうど30歳になるときだったので、記念というわけではありませんが、空を飛んで、陸も走って、結社に入ろうと（笑）。良くお話を伺うと、当時、蔵王で行っていたパラグライダーで空を飛ぶ体験をし、松島マラソンに参加して陸を走り、結社に入ったのだそう。そして現在に至るまで、選集を含め9冊の歌集を出版している。

作品づくりを支える原風景

小学6年生まで一緒に暮らした祖母の家で見た光景が、高橋さんの作品づくりを支える原風景となっている。例えば、



歌人

高橋 みずほ

（たかはし・みずほ）

昭和54年文学部史学科卒

昭和32年2月12日生まれ。仙台市出身。大学卒業後、宮城県多賀城跡調査研究所、東北大学工学部附属材料強度研究施設に勤務。30歳になるのを契機に、加藤克巳に師事、歌誌「個性」に入会。枠にとられない自由なスタイルで、短歌で表現する世界を広げている。後輩の皆さんへのメッセージをいただくと「自分を信じてほしい。内に気付かない力があるから。必ず自分に合うものと出会えるはずですよ」とエールをくださった。

バラの花びらがこぼれ落ちている光景や、夕焼けの中の祖母のシルエットなどを見ては、「これは覚えておかなければならない」と幼な心に思っていたと話す。

「言葉と言葉の間から立ち上るもの、湧き出てくるものを感じて、読んでくださった方がご自身の記憶や思いと重ねて、『こういうことであるよね』と共感してもらえたら、うれしいです。すでになくなってしまうものが、言葉の世界に蘇って、そこに生きてきた時、いま在ることを大切に感じてもらえたら」と高橋さん。災害などの前に言葉は無力だと考えさせられたけれど、それでも踏み出そうとする心に寄り添えるのが言葉ではないかと思うようになったそう。

「年齢に関係なく、いろいろなことに挑戦していきたいです。特に短歌は、まだまだこれからだと思ってるんですよ」と高橋さん。日常の中で経験したり、感じたりした目には見えないものに形を与え、どのような短歌をつくり上げて私たちに手渡してくれるのだろうか。とても楽しみです。



誰からも

気軽に相談していただける

弁護士を目指します



世代を超えたTGの輪

躍動する同窓生

PROGRESS

「はづき法律事務所」のプレートが掛けられたドア。初めて訪れる相談者の多くは、不安な気持ちを抱えてこの場所に立つに違いない。しかし、この扉の先で待つ弁護士、高城さんの明るくて柔らかい表情にふれることで、それまで胸を覆っていた不安や緊張が徐々ときほぐされていく。そんな親近感が高城さんにはある。

「私自身、何でもテキパキとできるタイプではないので、相談に来られた方々のお話を伺って、それに対してお説教をしたり、怒ったりすることはしません。十分にお話を伺って、ご本人が困っていて、私にやってほしいと思っていることに応えようと常に心がけています」と、高城さんは穏やかに話す。



はづき法律事務所
弁護士

高城 晶紀 (たかぎ・あき)

平成15年法学部法律学科卒
平成17年法学研究科博士課程前期修了

昭和55年12月3日生まれ。仙台市出身。石井慎也法律事務所、法律事務所を経て、平成28年8月にはづき法律事務所を開設。親族間紛争から、遺言・相続問題、離婚、男女間トラブル、損害賠償請求、ペット問題など幅広い事件を扱う。プライベートでは2児の母でもあり、仕事と育児の両立に奮闘中。時間ができたらやりたいことは、読書と一人旅。「一人で出かけたら出かけたで、きっと寂しくなるとは思います」と話す。

必死に勉強しよう

とに気づいたんです。そこで、大学は社会人になる前に、じっくり勉強ができる最後の期間なのだから、勉強に必死になってみようかと決めました。文系では司法試験合格が最も狭き門ではないかということで、弁護士になるという高い目標を立てたんです。

弁護士がどのような仕事をするのかは、テレビドラマを見て得た知識くらいしかもっていませんでした。高城さん。それでも、正義感にあふれた仕事に魅力を感じ、在学中に旧司法試験の第一段階である短答式試験に合格。周囲から、「この試験に受かっただけでもすごい」と言われたことで、弁護士になることが現実味を帯び始めたという。そして平成17年、大学院を修了した年の10月、晴れて旧司法試験に合格した。

仕事の効率化と情報発信

東北学院時代に身につけた学びについて、また、お仕事のやりがいについて伺った。

「大学院の指導教員だった菊地雄介先生が、私たち学生が回答例をなぞるような考え方をすることを許さなかったことで、とにかく自分の頭で考える力が鍛えられました。弁護士になつたいま、初めて遭遇するような案件にも前向きに取り組むことができるのは、菊地先生のご指導のおかげです。また、仕事のやりがいを感じるのには、相談に来られた方が、次の新たなステップに一步を踏み出せたときですね。力になって良かったと思います」。

弁護士となつておよそ10年、高城さん

の次の目標は、仕事の効率化だという。

「4歳と2歳の子どもがおり、仕事と育児の両立で時間はいくらあっても足りません(笑)。相談者のお話は誠心誠意、時間をかけて伺いますが、その後のメールのやり取りなど、ちょっとした報告事項でも、私から早めに返信を差し上げて、安心していただけるようにしなければなりません(笑)。信頼関係を築くには、こうした地道な積み重ねがとても大切だと思うのです。それから、コミュニケーションがうまくできないことで、誰ともつながることができない方にも、気軽に相談してもらえようように情報発信をしていきたいと思っています。私一人では、たくさんの方々とつながることは難しいと思いますが、そのやり方も含めて

考えたいですね。そして、『ここに来て良かった』とっていただけたような法律事務所になることを目指します」と今後の抱負を語る。

インタビュー中、何度かご自身のことを「私、結構ダメ人間で…」と笑って話していた高城さん。自分の弱点をさらりと言うことができる強さとしなやかさが、相談者に安心感をもたらす、信頼を集める源なのかもしれない。





この店を出たとき、少しでも
元気になれるおもてなしを



allagriglia Restaurant



アッラ・グリッリア
〒980-0803
宮城県仙台市青葉区国分町3-9-2
TEL. 022(726)4888
【営業時間】PM6:00～AM12:00(ラストオーダーPM11:00)
【定休日】日曜
【フェイスブック】www.facebook.com/AllaGriglia

懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 22

取材MEMO

おしゃれなパッケージも
イタリア産
パスタならではの



素材を吟味するシェフの脇田さんの最近のお気に入り、「マンチーニ」と「マルティーノ」というパスタ。イタリア産の小麦を使用した、知る人ぞ知る希少価値の高いものです。ちなみに下のマルティーノのパッケージは、イタリアを代表する世界的ファッションブランド「ドルチェ&ガッパーナ」のデザイン。ハイブランドとコラボするパスタを選ぶ点からも、脇田さんのセンスの良さが伝わってきます。



イタリア料理店 アッラ・グリッリア

代表

脇田 浩明

(わきた・ひろあき)

昭和59年東北学院中学校
昭和62年東北学院高等学校
平成3年経済学部経済学科卒

マネージャー

脇田 沙織

(わきた・さおり)

平成14年文学部英文学科卒

お客様に愛された
17年の日々

東北一の繁華街と言われる仙台市青葉区国分町。人通りの絶えないエリアから少し歩いた路地裏に、イタリア料理店「アッラ・グリッリア」はある。今年、開店17年を迎えた。

「今日まで続けてこられたのは、お客さんに恵まれたからなんです。うちは小さな店ですから、お客さんとの距離も近いですし、自然と親しくなることができました。ここまで一緒に来てくださったことに感謝です」とオーナーシェフの脇田さん。大学時代に始めたレストランでのアルバイトがきっかけで、イタリアンの魅力にひかれ、33歳でこの店をオープン。現在は、奥様の沙織さんと二人三脚で店を切り盛りしている。

「仙台そして東北には、たくさん良い食材がありますので、料理にはそれらとイタリアの食材とを組み合わせるようようにしているんです。また、パスタやオイル、塩も質の良いものを選んでいきます。それがお客さんの健康につながればうれしいですし、胃もたれなどせず、気分良く帰っていただければ、なお良いですよ」と脇田さんは話す。

生涯の友と出会えた
東北学院

共に東北学院大学の卒業生である脇田さんご夫妻に、学生時代のことを伺った。「私は中高も東北学院でした。大学まで同じ仲間と進学したこともあり、楽しかった思い出があります」と脇田さんと脇田さん。沙織さんも「大学時代の友人2人とは、いまでも付き合いが続いているんです。今年は、彼女たちと出会う20年目の記念すべき年なので、旦那様もまじえて6人で旅行に行く予定です。生涯の友と巡り会えた大学は、私にとって特別の場所です」と東北学院に対する思いを語る。

最後に、今後の抱負を伺った。

「基本的には、オープン当初から店づくりに対する思いは変わっていないんです。店に来たときよりも、帰るときの方が少し楽しい気分になつてもらえれば良いかな...と、そう思っています」と脇田さん。沙織さんも「楽しい時間を過ごして、明日もがんばろうと思ってもらえるような店でありたいです」と続ける。お二人が醸し出すハッピーな雰囲気と明るさが、他では味わえない最高の料理の隠し味になっているようだ。

港町・塩竈の食材を おいしくするお酒でありたい



取材MEMO

人が集まり、楽しい時間に 寄り添うお酒

阿部勘酒造が酒造りを始めたのは、享保元年(1716年)。古くから塩竈神社のふもとで商店を営んでいましたが、伊達藩の命により酒造株を譲り受け、塩竈神社への御神酒御用酒屋になりました。現在も無事に酒造期間を終えると、新酒を奉納しています。そんな同社の代表銘柄は『阿部勘』、そして『於茂多加男山』。食事をおいしく、その時間を楽しく演出してくれる食中酒として愛されています。

懐かしい風 新しい出会い

同窓生のお店を訪ねて 22



醸造元 阿部勘酒造株式会社

〒985-0057
宮城県塩竈市西町3-9
TEL. 022(362)0251
[営業時間] AM10:00~PM5:00
[定休日] 第2・4・5土曜、日曜、祝日
[ホームページ] <http://www.abekan.com/>



阿部勘酒造株式会社 専務取締役

阿部 昌弘
(あべ・まさひろ)

平成11年東北学院中学校・平成14年東北学院高等学校卒

「こだわりがない」のが
阿部勘流のこだわり

日本有数の港町・塩竈で、300年余りにわたって丁寧な酒造りを続ける阿部勘酒造(株)。15代目となる阿部昌弘さんは、現在、14代目阿部勘九郎を襲名した父親とともに親子2代で歴史ある酒蔵を守っている。

「昔から、ここ塩竈や松島、利府を中心に商売をしておりました。基本的には規模を大きくしようというより、飲む人の顔が見える、声が聞こえる範囲でやっていきたいと思っています。最近では仙台をはじめ全国から私たちのお酒の引き合いをいただくことが増えてきました。品質を守りながら、皆さんに『うまい』といってもらえるお酒を末永く造っていきたい。塩竈は新鮮な魚介類をそのまま食べることが多いので、そんな食事に合う酒を造りたいと思っています」と昌弘さん。そのためには、酒造りに「良い」と言われることは、すべて試してきた。幸いにも宮城の蔵元はオープンマインドで、蔵元同士、情報交換を頻繁に行っているという。「そういう意味では、こだわりのないのが阿部勘のこだわりと言えるかもしれませんね」と苦笑する。

昌弘さんが酒造りを行うようになったのは8年前。東京の大学を卒業後、一般企業に就職したが、英語を身につけたい、世界を知りたいと一念発起、カナダに留学した。帰国後、職探しをしながら家業を手伝ったことで、その面白さにひきつけられた。

「生き物なんです、お酒は。状態が変わるのを見るのとても面白いですし、1から手づくりすることの醍醐味にひき込まれました」と、この道を選んだきっかけを語る。

同級生たちの姿に 刺激を受けて

阿部さんに東北学院中学校への入学を勧めたのは、同じく東北学院中・高出身の父、14代目勘九郎氏だった。

「男子校独特の良さがありましたし、先生方も根気強く、私たちの面倒を見てくださったと思います。また、最近ではさまざまな会合や商談会などで同級生と会う機会が増え、責任世代になってきたことを感じます」と阿部さん。地元でがんばる同級生たちからも、大いに刺激を受けながら、これからも愛される酒造りを続けるために、たゆまぬ努力が続く。

全国に活動の場を広げる

全国の支部・TG会の活動報告 北から南から

全国 87支部 123 TG会

TGネットワーク

Around Japan

同窓会支部一覧 87 支部

平成30年7月25日現在

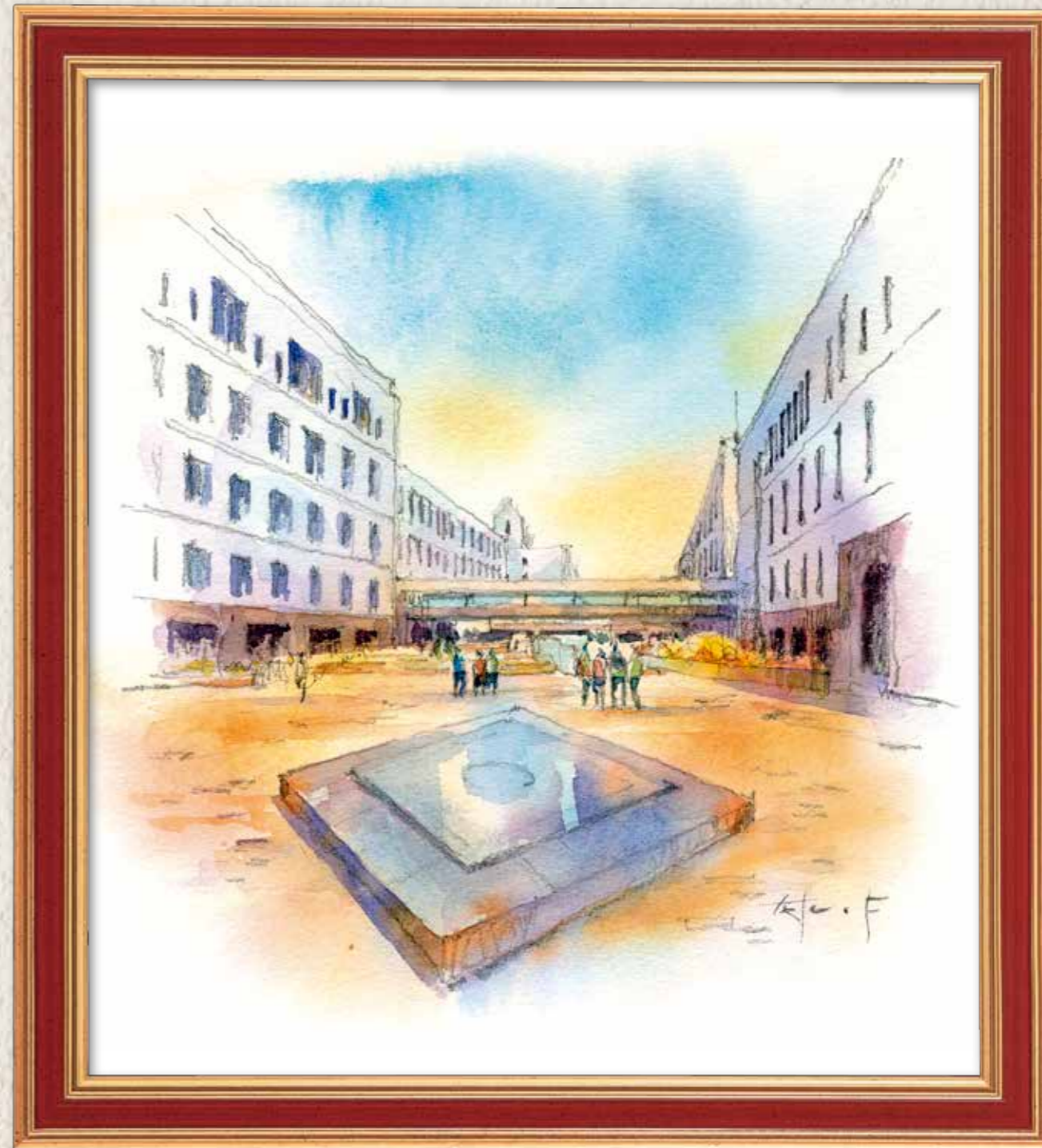
宮城県	北海道	岩手県	山形県	関東	東海・近畿
仙台同窓会	札幌支部	盛岡支部	山形支部	東京支部	東海支部
青葉支部	旭川支部	一関支部	上山支部	神奈川支部	静岡支部
泉支部	岩見沢支部	奥州支部	寒河江支部	栃木支部	近畿支部
太白支部	帯広・十勝支部	釜石支部	酒田支部	群馬支部	
太白支部秋保地区 TG 会	大川支部	北上・和賀支部	新庄支部	武蔵野支部	
宮城野支部	村田支部	気仙支部	天童支部	水戸支部	
宮城野支部岩切 TG 会	川崎支部	紫波支部	米沢支部		
宮城野支部高砂 TG 会	宮城蔵王支部	宮古支部			
若林支部	角田・丸森支部				
多賀城支部	白石支部	秋田県	福島県	信越・北陸	中国・四国・九州
利府支部	黒川支部	秋田県中央支部	福島県北支部	新潟支部	広島支部
塩釜支部	大崎支部	秋田県大館支部	会津支部	信州支部	四国支部
松島支部	登米支部	秋田県南支部	いわき支部	北陸支部	九州支部
鳴瀬支部	美里支部	上十三支部	郡山支部		
石巻支部	涌谷支部		相馬支部		
女川支部	栗原支部		南相馬支部		
志津川支部	鳴子支部		双葉支部		
気仙沼支部					
					北米
					北米支部

TG会一覧 123 TG会

平成30年7月25日現在

アーサナス同窓会	ココヨグループTG会	TGしびる会	東九番丁寄宿舎(北黎寮)TG会
アイリスグループTG会	コセキTG会	TGしびる技術士会	日立キャピタルTG会
秋田市役所TG青葉会	裁判所TG会	TGスポーツOB連合会	日比谷総合設備グループTG会
ALSOK宮城TG会	佐藤製線グループTG会	TG地理学同窓会	ぴっと62TG会
石巻市役所TG会	三機工業グループTG会	TG鍼灸接骨師会	藤崎TG会
石巻信用金庫TG会	職業会計人TG会	TGパシコグループ会	富士ゼロックス宮城TG会
泉女子寄宿舎同窓会	七十七銀行TG会	TG薬剤師会	復建TG会
岩手医大TG会	清水建設TG会	TG地塩会	古川工業高等学校TG会
岩手県教職員TG会	シロキヤ・オフィスベンダーTG会	電気工学TG会(コスモス)	古川電気工業TG会
岩手県庁TG会	神学TG会	デンタルTG会	弁護士TG会
エイエイピーTG会	JR東日本TG会	凸版印刷TG会	法学部同窓会
NTTグループTG会	菅原学園TG会	東邦銀行TG会	舗装TG会
遠藤商事TG会	仙台銀行TG会	東北運輸局TG会	北海道教職員TG会
大木建設TG会	仙台国際ホテルTG会	東北学院高等学校二部TG会	マンパワーグループTG会
大崎市役所TG会	仙台市議会議員TG会	東北学院3L会	みちのく銀行TG会
OKIテクノワーステムズTG会	仙台市役所TG会	東北学院中学校・高等学校同窓会	水戸屋TG会
角田市役所TG会	仙台青年会議所中高TG会	東北学院中学高等学校寄宿舎同窓会	宮城県議会議員TG会
鹿島TG会	セントTG会	東北学院榴ヶ岡高等学校同窓会	宮城県警TG会
兜町TG会	銭高組TG会	東北厚生局TG会	宮城県宅地建物取引業協会TG会(宮宅建TG会)
釜石市役所TG会	全日警仙台支社TG会	東北高等学校TG会	宮城県庁TG会
川口印刷工業TG会	総合警備保障TG会	東北コムTG会	宮城第一信用金庫TG会
教養学部TG会	大成建設グループTG会	東北放送TG会	宮城ダイハツTG会
北日本銀行TG会	太平洋エンジニアリングTG会	東北マツダTG会	宮城トヨタTG会
基督教学科TG会	高砂熱学工業TG会	東洋熱工業(株)東北支店TG会	宮古市役所TG会
キリスト者TG会	多賀城寄宿舎同窓会	戸田建設TG会	明治安田生命TG会
行政書士TG会	多賀城市役所TG会	ドクターTG会	盛岡市役所TG会
建設TG会	竹中TG会	土木教員宮城TG会	杜の都信用金庫TG会
工学部機械TG会	田崎真珠TG会	日専連TG会	守屋グループTG会
弘進コムTG会	鉄鋼TG会	西原グループTG会	ユアテックTG会
コカ・コーライーストジャパンTG会	帝国データバンクTG会	能美防災TG会	リコージャパン東北営業本部TG会
古久根建設TG会	TG史学同窓会	バイタルネットTG会	

【情報をお寄せください】全国で幅広い活動を行う支部、TG会の活動報告の場です。皆様の情報をお待ちしております。(情報は校友課まで)



TG Gallery
東北学院大学 泉キャンパス
Taka Furuyama

古山 拓。昭和61年 文学部史学科卒。昭和37年岩手県に生まれる。アニメーター、印刷会社、デザインプロダクション勤務を経て、平成6年、フリーイラストレーターとして独立。東北、東京等各地で風景水彩画の個展を開催。個展発表と広告美術の二本の柱で活動中。日仏現代美術博「ARTEC 造形美術賞」受賞。パリで開催された国交省イベント「ようこそ東北へ」では、東北風景紹介作家としてメイン展示。アトリエ名/ランズエンド。洋画家 故・杉浦朝雄氏に師事。●東北イラストレーターズクラブ会員 ●(社)宮城県芸術協会会員

東北学院大学

土樋キャンパス

大学院:文学研究科・経済学研究科・経営学研究科
法学研究科

学 部:文学部・経済学部・経営学部
法学部(各3・4年)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院:工学研究科

学 部:工学部

〒985-8537 多賀城市中央一丁目13番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科

学 部:文学部・経済学部・経営学部
法学部(各1・2年)・教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1号
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655

3L通信編集委員会

委員長	同窓会副会長・法人事務局長	斎藤 英夫
副委員長	同窓会副会長	峯岸 良健
委 員	東北学院庶務部長	齋藤 信二
	東北学院大学学長室長・経済学部教授	阿部 重樹
	同窓会若林支部幹事長(代議員)	亀岡 幸康
	同窓会宮城野支部(代議員)	菊地 茂
	法学部同窓会副会長	館崎 智信
	仙台同窓会事務局長(代議員)	高橋 公晴
	同窓会太白支部支部長(代議員)	馬場 弘幸
	TGスポーツOB連合会副会長	内海 睦夫
	ユアテックTG会事務局長(代議員)	羽賀 新一
	東北学院広報部長	大沼健一郎
	東北学院庶務部校友課長	山田 純
	東北学院庶務部校友課長補佐	
	東北学院庶務部校友課係長	

発行日/2018(平成30)年11月1日
発行所/東北学院同窓会(事務局:庶務部校友課)
発行人/後藤 久幸(東北学院同窓会長)
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6468 FAX.022-214-0404
URL: http://www.tg-alumni.jp
E-mail: dousou@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
印 刷/株式会社ユーメディア

校友課より

「個人情報保護法」への取り組みについて

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたのに伴い、東北学院では園児・生徒・学生をはじめ卒業生等の個人情報の取り扱いについて「学校法人東北学院個人情報保護規程」を定め、個人情報の適正な管理と保護に務めています。

校友課では、東北学院同窓会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。詳細については、東北学院ホームページに掲載していますのでご覧ください。

なお、東北学院同窓会で使用する個人情報の利用目的は、次の通りです。

- ◇「東北学院時報」並びに「3L通信—Lux Mundi」の送付
- ◇「東北学院時報」購読料並びに同窓会費の徴収に関わる事務
- ◇各支部・TG会などが主催する総会及び行事の案内
- ◇その他、上記に関連する業務

住所等変更届のお願い

同窓生の皆様には、お名前・ご住所・電話番号に変更が生じましたら、お手数でも校友課までご連絡くださいますようお願いいたします。お預かりする皆様方の個人情報は慎重に取り扱い、同窓会に関する利用目的以外には使用いたしません。特に「東北学院時報」と「3L通信—Lux Mundi」は、皆様と母校を結ぶ通信手段として欠かせないものですので、ぜひご協力をお願いいたします。なお、住所変更届は東北学院同窓会公式ホームページからも行うことができます。

お名前の「旧字体」や「特殊文字」の扱いについて

同窓生情報のシステムの変更に伴い、お名前に旧字体や特殊文字をお使いの方は、会報の送付の際などに、常用の字体(JIS第二水準)に置き換えて表記させていただきます。皆様方には、ご理解とご協力をお願いいたします。